

オープン一周年に際して
プロデューサー 中村 元のコメント

1年の入館者数が30万人にも達しようという事態は、まったく想像していませんでした。
期待していた以上に、北海道民のみなさんと、メディアのみなさんから愛される水族館になったという
ことであると分析しています。

また、このような小さな水族館がそれだけの人数を受け入れられたのは、スタッフのみなさんの素晴らしい働きによるものであることも忘れてはなりません。

●コストパフォーマンスは水族館史上最大級

30万人という入館者数は新設の水族館としては、さほど大きな数字ではありませんが、3億5千万円の総工費であることを考えると、水族館史上最高のコストパフォーマンスであると思われます。

(※1年早く同じく建て替えをした広島県の宮島水族館「みやじマリン」が、40億円の総工費で初年度90万人弱であったのと比較すると、11分の1の事業費で3分の1の入館者を得ている)

●今後の計画

水族館の入館者数の傾向は、2年目には7割程度に落ち込むのが普通です。

しかし当水族館においては今後、北海道民に愛されたこの水族館を、日本全国民から愛される「北の大地の水族館」として、初年度と同等あるいはそれ以上に集客することを目標にしています。

そのために現在、さまざまな施策を計画し、スタッフが実現のために奔走しています。

また、地域の特色を水族館の展示に活かしているのも、当水族館が他水族館と違う大きな魅力でもあり、水族館とともに地域が発展することがさらに強い集客力となります。

ついては、水族館を核とした地域づくりにおいても、日本一を目指し、今まで以上に地域のみなさんの団結と挑戦をいただきたくお願いする次第です。

2年目のさらなる飛躍をお約束します。